

支えあいがつくる日常

支えあいの意が大切にされ、昔から人々に愛され、そして市民の生活を身近に支えてきた、とある近隣型商店街。そんな素敵な商店街はいつのまにか、どことなく寂しいところになってしまった。
この商店街の価値を見つめ直し、もう一度市民に愛着をもってもらえる商店街を提案する。



01 About the site



設計の対象敷地は熊本中心市街地の北東にある、昔ながらの近隣型商店街、子飼商店街である。熊本中心市街地から徒歩15分、熊本大学から徒歩7分のところに位置し、商店街周辺には、熊本大学、複数の高校、小学校がある。



▲子飼商店街の北口



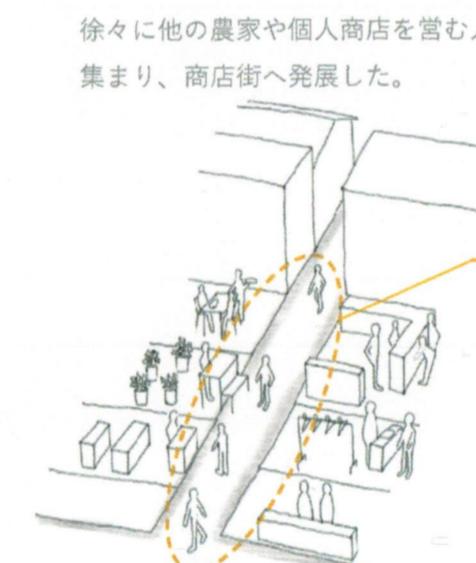
▲子飼商店街の街道

子飼商店街は周辺に幹線道路や住宅街があり、車通りが多い場所に立地しているが、内は歩行者天国空間になっており、のんびりとした雰囲気が流れている。花屋、肉屋、八百屋、くすり屋、飲食店、洋服屋など、72店舗の個商店が雑多に並ぶ。

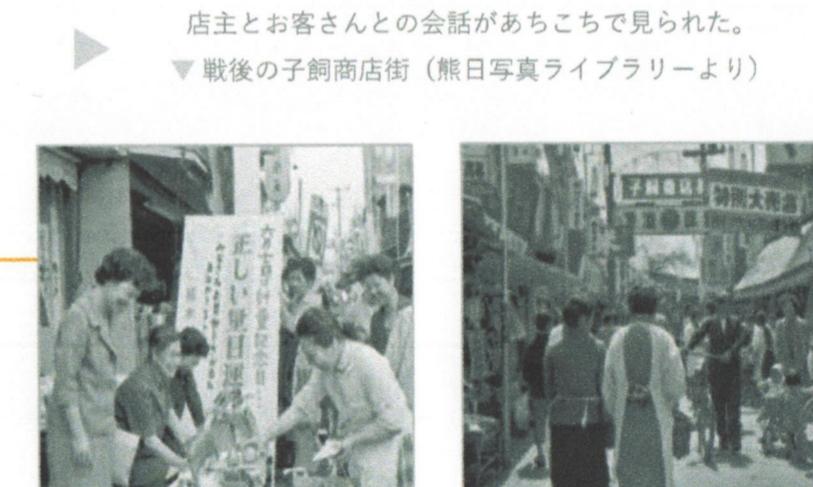
02 History and challenges



近郊の農家がスクランブル交差で野菜を販売。安価で新鮮な野菜が評判になり客が集まった。



徐々に他の農家や個人商店を営む人々が集まり、商店街へ発展した。



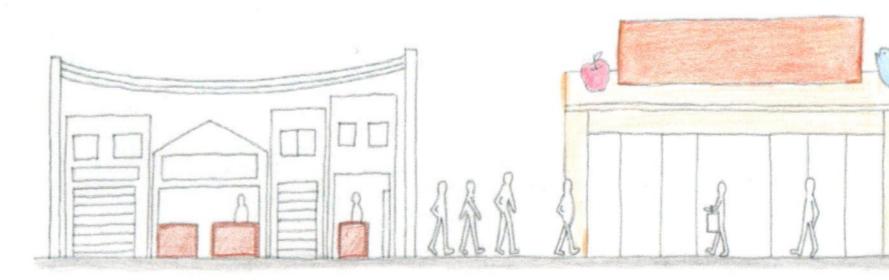
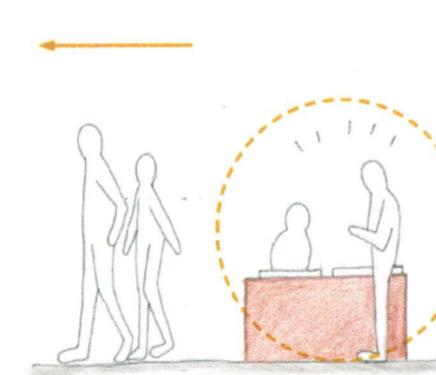
店主とお客様との会話があちこちで見られた。
▼戦後の子飼商店街（熊日写真ライブラリーより）

子飼商店街の形成は、戦後の闇市からである。人々の生活がぎりぎり中、人々の「みんなで助け合おう、支えあおう」という思いから店が集まり、人が集まり商店街へ発展した。またここでは、商売だけではなく、店主とお客様との語らいもあり、「情のある町」として人々に愛されてきた。人々の生活に寄り添い、暮らしを豊かにさせてくれる下町情緒な商店街だった。

①地域住民と商店街のコミュニティの希薄化

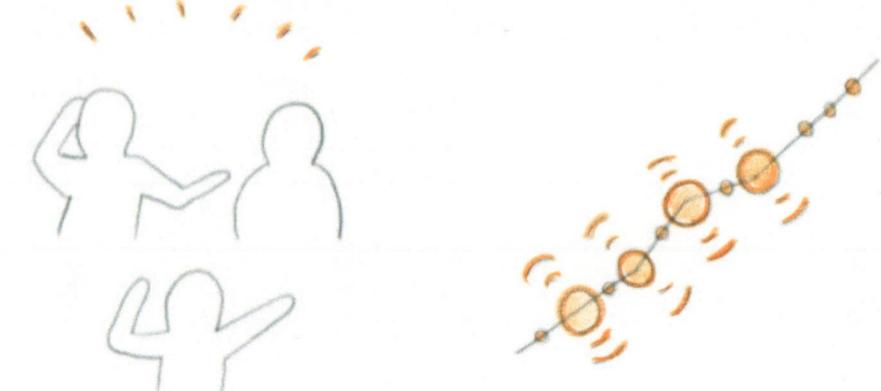
②商店街に不便さを感じる人の増加

商店街に対する愛着が希薄化し、商店街を離れる人が増加



人々に愛され、多くの人が行き交っていた商店街は、近年では利用者が減少し賑わいを失っている。近年の若者は地域の人と交流をすること苦手とする人が多いことから、商店街をただの通学路・通り道として通り過ぎる人が増え、商店街内のコミュニティが希薄化していること、また商店街の閉店時間が早いことから、買い物ができないという不便さを感じ、商店街にそもそも訪れなくなった人が増加していることが背景にあると考える。子飼商店街が昔から大切にしてきた、「支えあい・助け合い」をテーマに、人々に再び愛着を持ってもらえる商店街を提案する。

03 Suggestion



背景①に対して

子飼商店街の「人情味の良さ」を活かし、地域住民と店主がふれあえるコミュニティスポットを、商店街のあちこちに計画する。各スポットのコミュニティの支え合いによって、商店街のコミュニティの活性化を目指す。



背景②に対して

商店街を閉店時間以降も利用できるようにし、地域住民のリビングのような場所にする。商店街が日々利用しやすい場所になれば、地域住民が商店街に親しみ・愛着を持つようになると考える。

04 Walk the site

設計に取り組む上で、子飼商店街とその周辺を歩いた。

商店街にはどんな店主さんがいたのか、商店街・商店街周辺には、どのような人たちがどのように過ごしていたのかを見ってきた。子飼商店街の「支えあい」とはどのようなものなのかというソフト的特徴、他の商店街とは違う子飼商店街の空間の面白さ、ハード的特徴を見つけることができた。そして見つけた特徴から、この設計で活かしたいことを考えた。

近所に住む小学生が、商店街を通って下校していた
ご近所さん同士の会話を見られた

近所の小学生たちが平日の夕方や休日に、団地の広場で元気で遊んでいた

お客様の希望で惣菜の値引きをする店主のおばちゃん

おしゃべり好きの肉屋の店主が学生におすすめの食材を教えていた

常連さんと交流する花屋の店主

平日の昼頃になると、たくさんの学生が揚げ弁当を買いに訪れていた

買い物を済ませて、商店街を通り過ぎる学生・若者も見られた

散歩帰りの近所のおばあちゃんが、婦人服店主としゃべりしていた

おしゃべり好きの店主が営む八百屋に食材を買ひに来た飲食店のおじちゃん

Soft features

1 商売空間の支えあい

商店街には各店舗から伸び、街路空間を覆う軒がある。店外にある商品が、日光や雨で傷まないように設けられた軒は、伸び合い、お互いの商売空間を構成していた。

2 食の支えあい

商店では、店主とお客様の日常的な会話だけでなく、おすすめの料理を共有する会話も見られた。店主と客が互いに情報を共有することから、子飼商店街では食に関する支えあいがあると感じた。

3 コミュニティの支えあい

商店街近隣に住むお年寄りの方は、商店街に買い物に来たとき、散歩でぶらっと来たりときに店主や他のお年寄りの方とおしゃべりしていた。子飼商店街は日常的なコミュニケーションの支えあいの場となっていた。

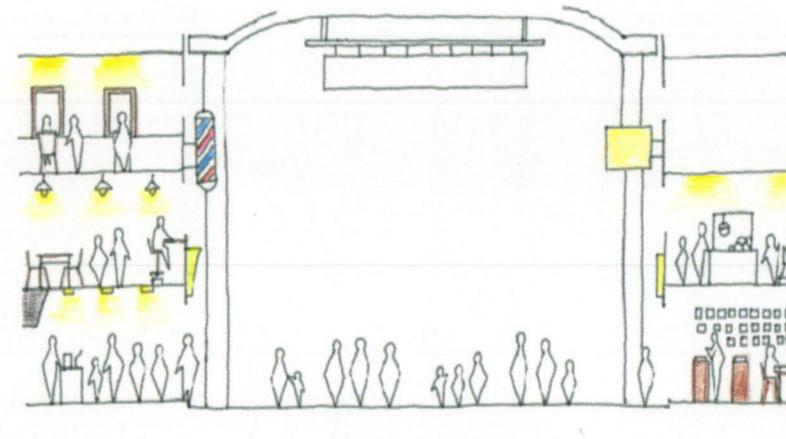
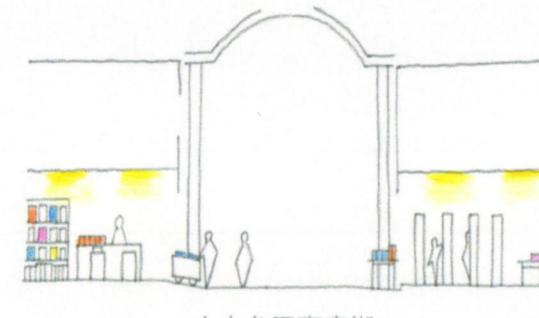
4 店主どうしの支えあい

飲食店を営む店主が、仕事に必要な材料や店の前で使う花を商店街の八百屋や花屋へ買い出しに来ていた。店主同士のこうしたコミュニティは、お互いの商売を支えあっていると感じた。

Hard features

店街の断面構成

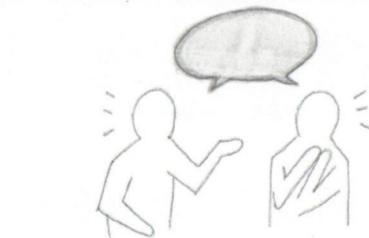
子飼商店街は、他の商店街と比較すると、街路を構成する建物が低く、道幅も狭かった。それにより街路空間がこじんまりとした雰囲気に包まれていた。また商品が店の外でも売られており、お客様と店主が近いというのも特徴的で、子飼商店街には店主と客の語らいのシーンが見られた。



Use good point

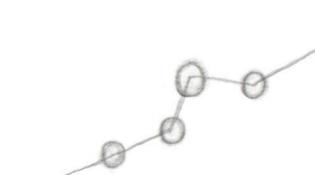
支えあいをあらわす軒

お互いの商売空間を支え合う軒は、店主と客が近い商売をする子飼商店街の商売のしかたを表すもの、商売空間を支えるそのもので、子飼商店街らしさを出している価値あるものと考えた。軒はこわさずに残す方針で計画を進めた。



人情味の良さ

店主とお客様の語らいがあり、人情味がある子飼商店街の良さを活かして、商店街周辺にいる子供たち・大学生・若者をはじめとする地域住民と商店街店主がふれ合えるコミュニティスポットをつくる。

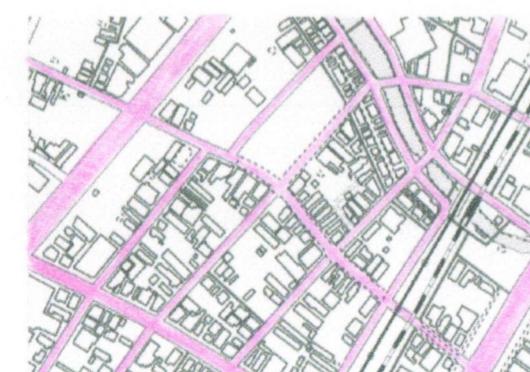


街道のぐねぐね

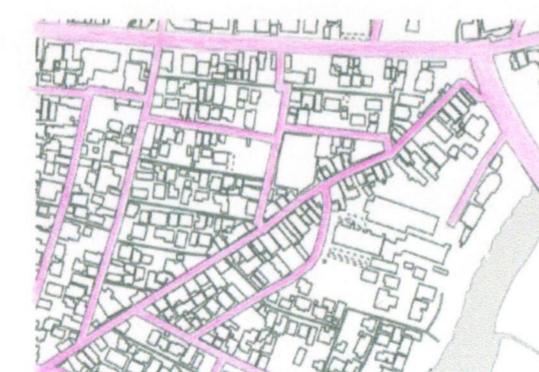
コミュニティスポットの計画をする際に、街道のぐねぐね道を活かした、人々の視線が自然と集まるアイストップをつくる。



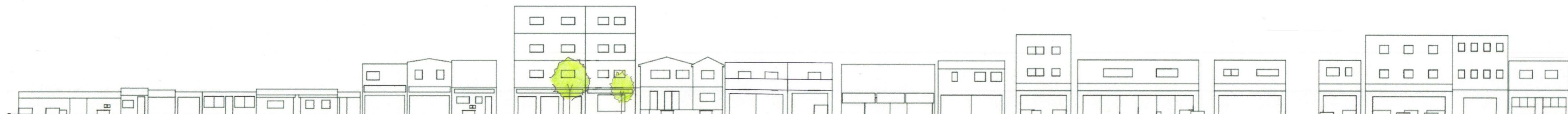
▲熊本中心市街



▲大牟田商店街



▲子飼商店街

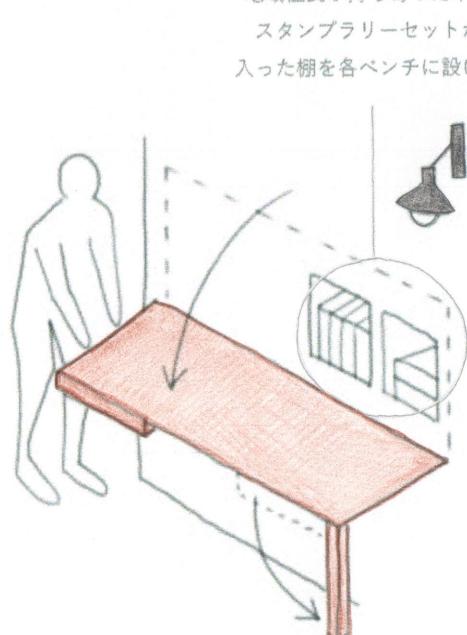


立面図 1:400

05 Plan and diagram

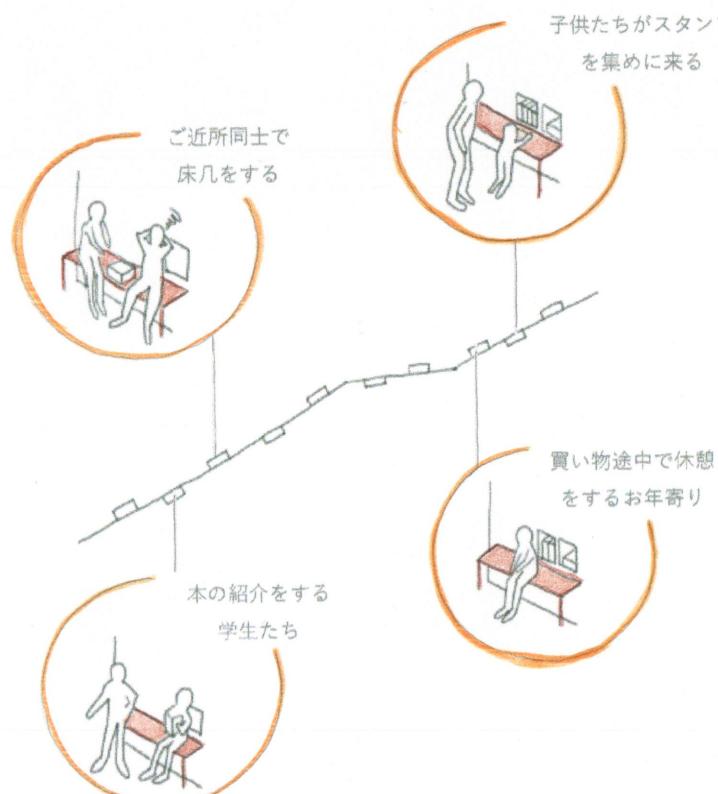
背景①より、商店街のコミュニティを活性化させるために、街道のあちこちに道行く人びとが気軽に腰を掛け利用できるコミュニティベンチを、街道が曲がっているところには、商店街の店主さんたちと道行く人びとが集まり交流をするコミュニティスポットを計画した。

地域住民が持ち寄った本や
スタンプラリーセットが
入った棚を各ベンチに設ける

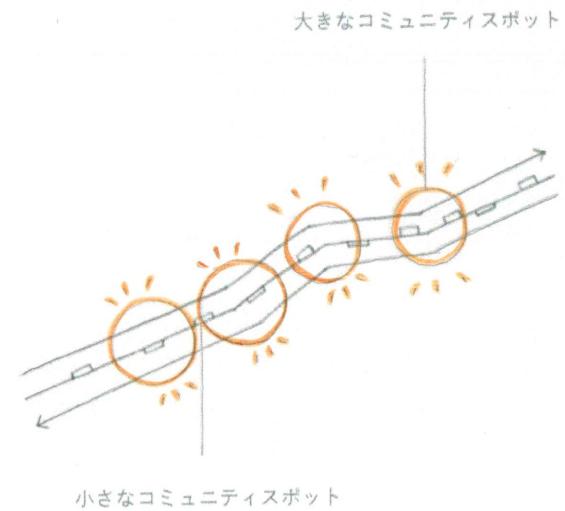


小さなコミュニティスポットにある
コミュニティベンチ

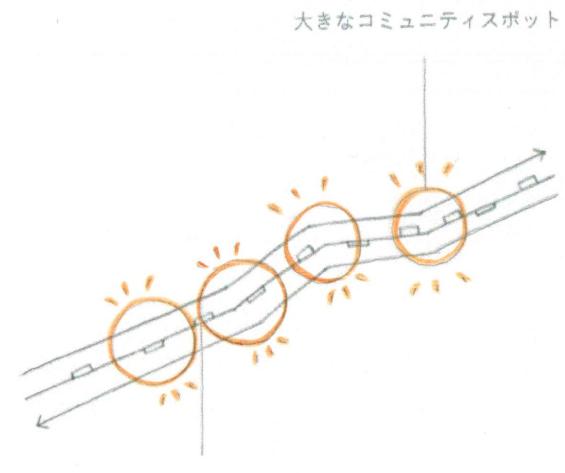
小さなコミュニティスポットにより、街道を歩いていて楽しい空間にして道に流動性をつくり、大きなコミュニティスポットへ人が集まるようになる。小さなコミュニティスポットには、ぱったり床几式のコミュニティベンチを設け、多様性のある交流がやりとりされる。



街道が曲がって、自然と視線が止まるところにはアイストップとなる大きなコミュニティスポットをつくった。ここは、周辺の店を巻き込んで、道行く人びとと店主さんたちが直接ふれ合えるスポットとした。大小のスポットにより商店街と地域住民のコミュニティをつくる。



小さなコミュニティスポット



大きなコミュニティスポット

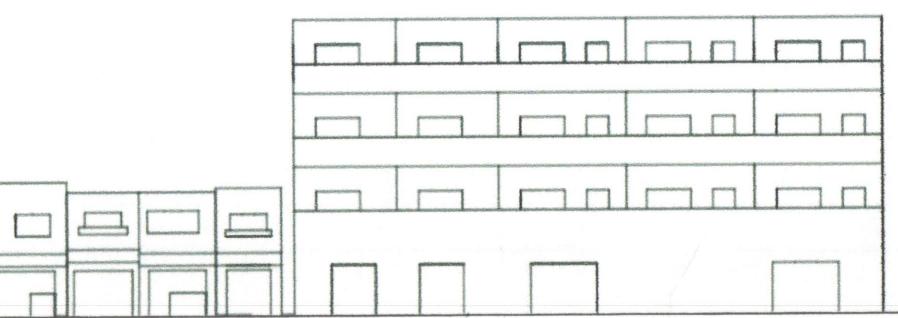
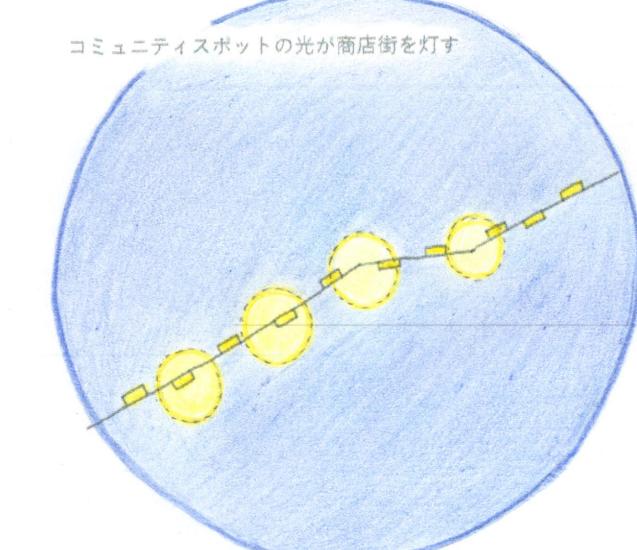
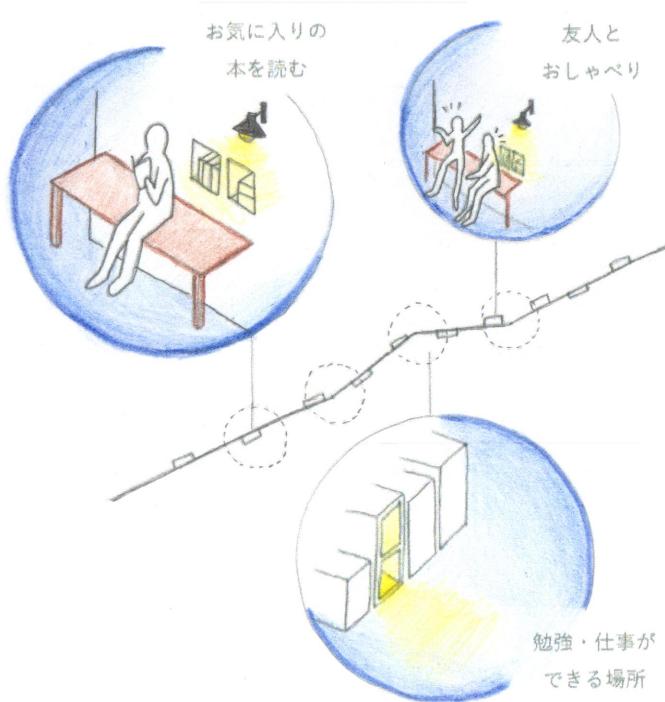


05 Plan and diagram

背景②より、計画するコミュニティスポットは、夜の間は、昼間とは反対に、人々がプライベートに利用できる場とする。

小さなコミュニティスポットは、ライトをつけて静かに本を読んだりお話しできるスポット。大きなコミュニティスポットは、コワーキングスペースとして利用でき

るスポットにする。夜の商店街道はこの大小のスポットの光によって灯される。閉店時間後、商店街を地域住人にとて、屋外のリビングのように利用できるところになれば、地域住民が商店街に対して、「居心地がいい場所」と感じ、愛着を取り戻してくれるのではないか。



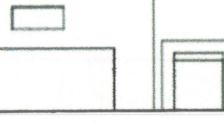
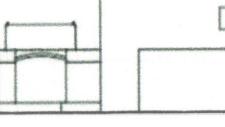
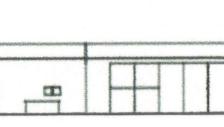
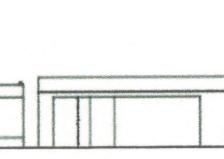
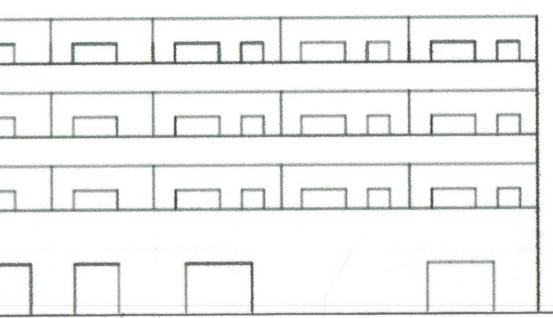
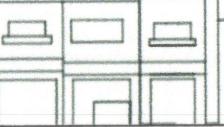
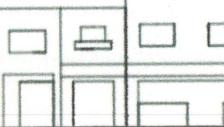
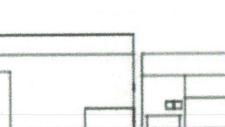
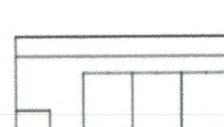
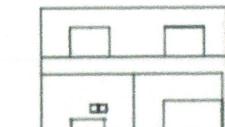
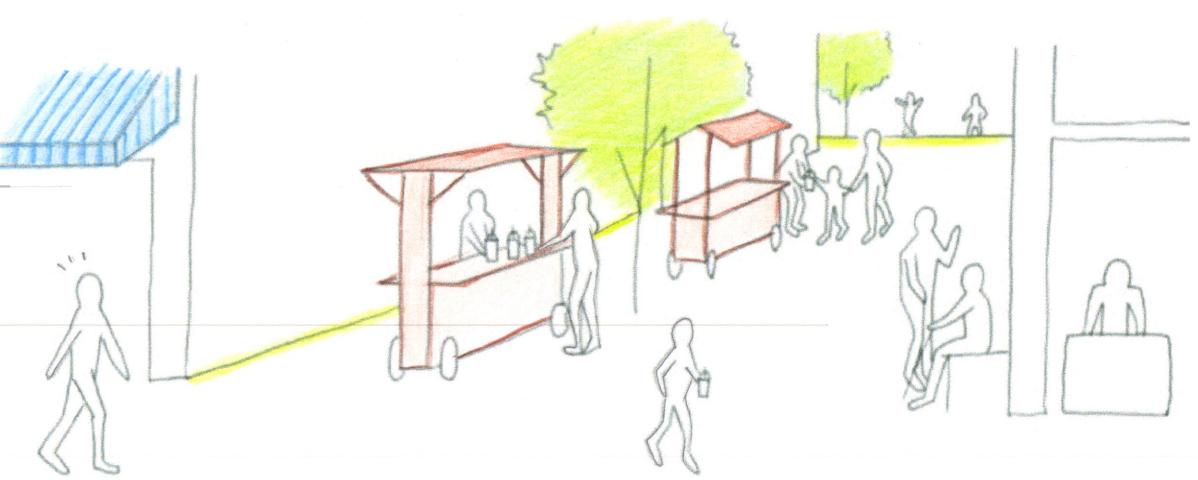
Challenge shop

子飼商店街が設けているチャレンジショップ用店舗を活用する。ここに、洋服店、ケーキ屋、パン屋、雑貨屋などの若者向けの店を入れ、若い世代の商店街利用を促す。



College student plans

熊本大学生の子飼商店街での屋台運営の計画を活用する。閉店した魚屋さんを解体し、団地の広場と街道をつなげる。人通りが多いこの裏道と広場は、街道とつなげることで、大学生を中心とした地域住民、商店街の店主の交流があふれるスポットとなる。



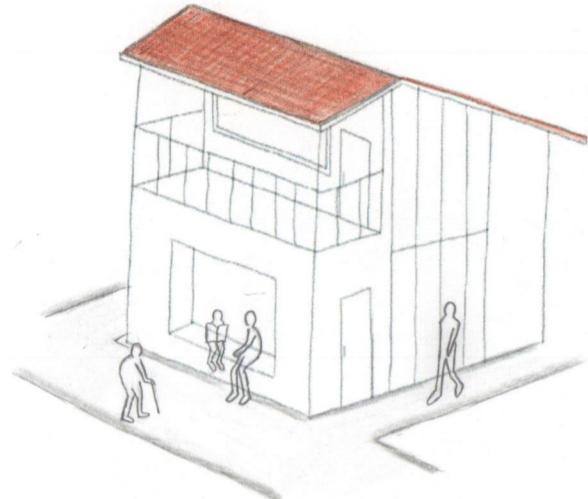
Spot1

近所のお年寄りの行き交いが多いこのスポットには、二つの空店舗と空地を活用し、お年寄りと子供たちが併にふれあえるコミュニティスポットを計画。

計画した二つの建物には階段をたくさん設け、子供たちが大きな踊り場でお年寄りと勉強したり、階段に座って本を読んだり、友達とおしゃべりしたり、とにかく自由に遊べる空間を計画。

ミニ広場側の建物は、開放的な大開口の出入口にするこことで、ミニ広場との回遊性を持たせた空間にした。

高齢者支援センターの前では、近くの花屋によるフラワーアレンジメント教室が定期的に開かれ、商店街店主と地域住民のふれあいも見られる。



平面図 1:350

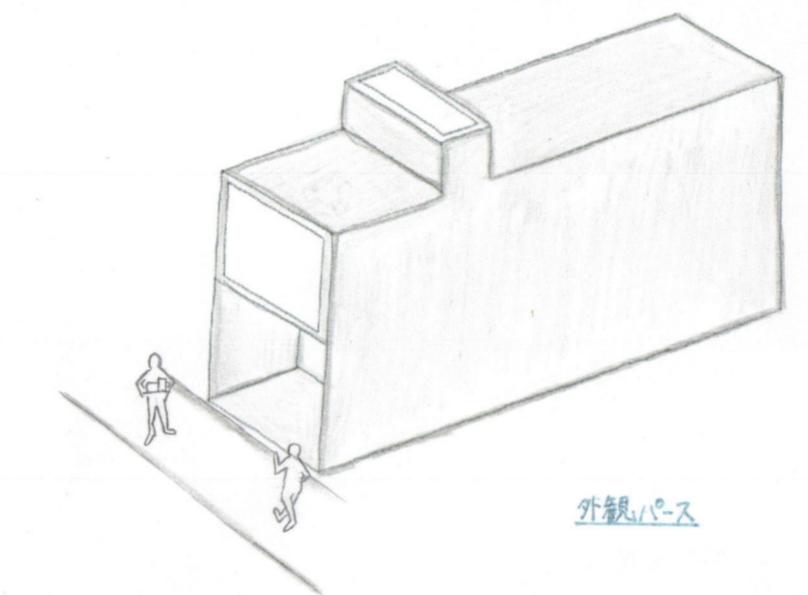
Spot2

若者に人気の店が集まり、学生の行き交いが多いこのスポットには、学生のたまり場となる施設を計画した。

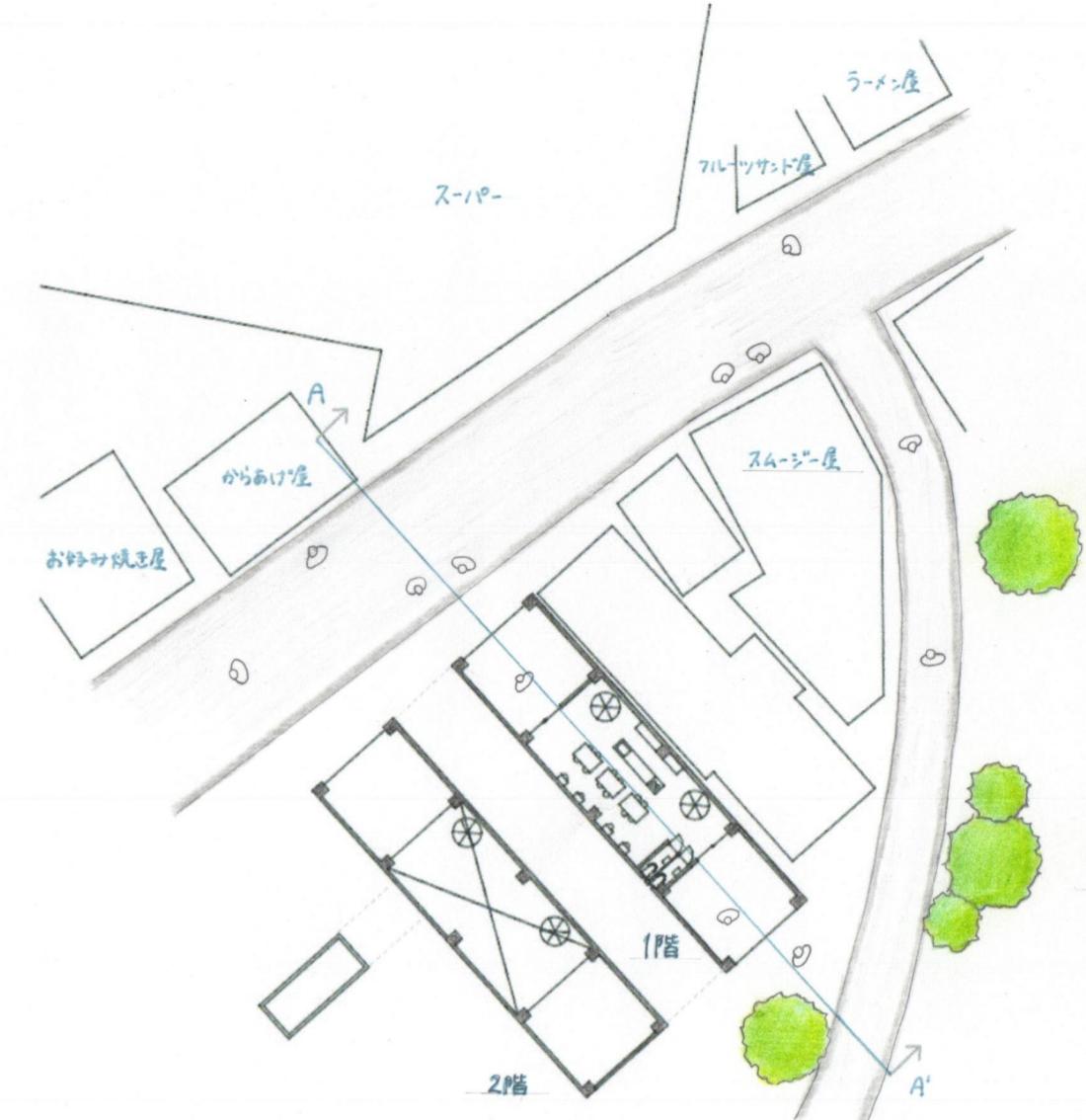
商店街を歩いてみると、学生の行き来が途絶えると商店街の賑わいが一段と失われるよう思えた。

そこで、学生がたまるるスポットをつくることで、商店街にコミュニティを促したいと考えた。

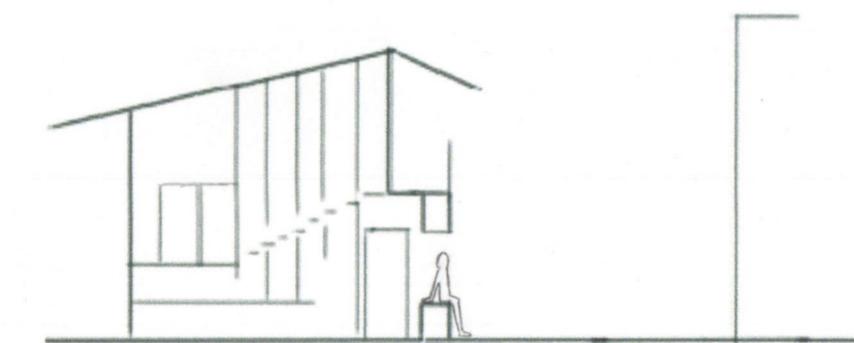
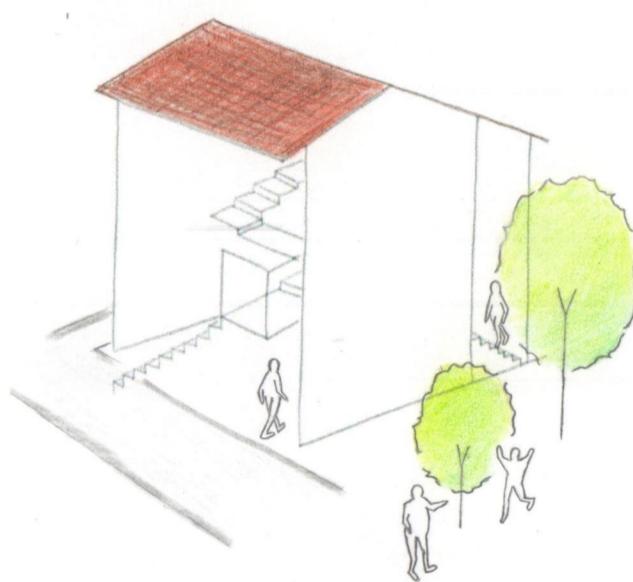
このスポットで学生たちが商店街について、情報を共有するようになれば、自然と商店街で買い物をしてくれる学生が増え、賑わいがあふれるようになる。



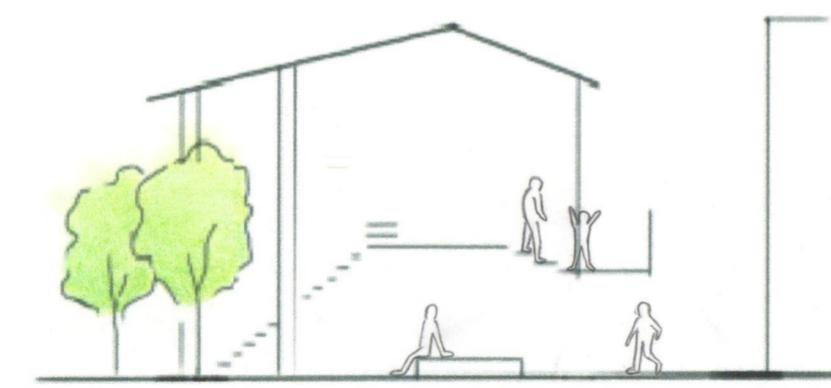
外観パース



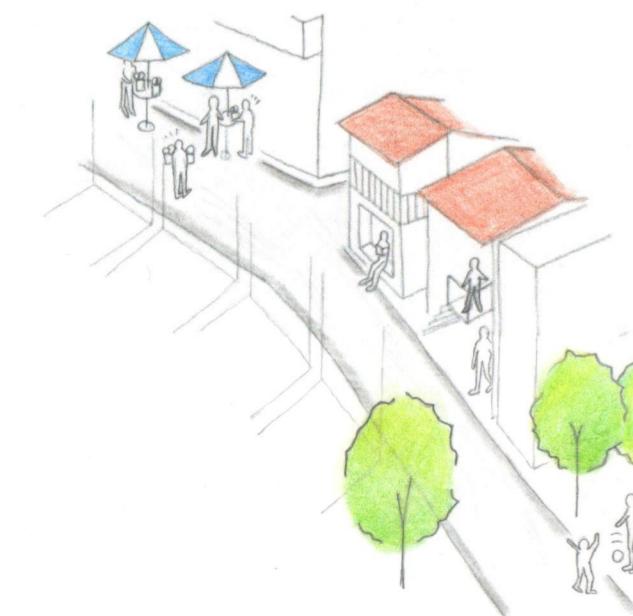
平面図 1:350



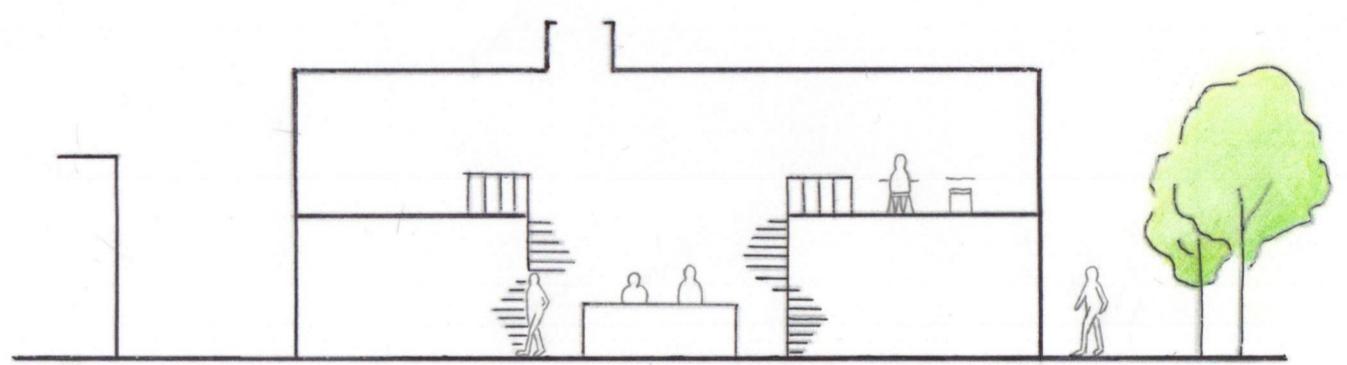
A-A'断面構成図



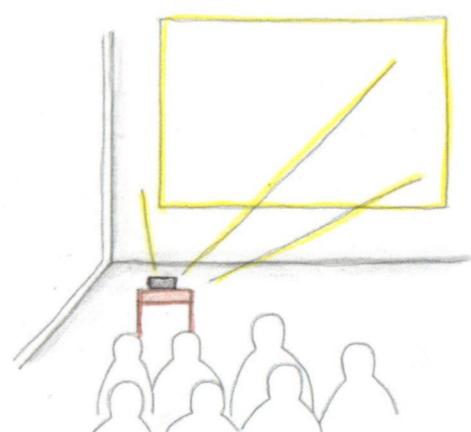
B-B'断面構成図



外観パース



A-A'断面構成図



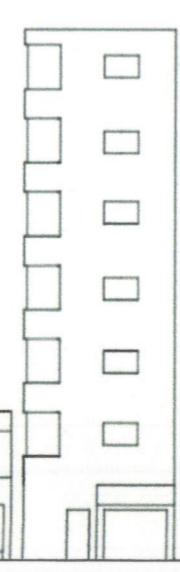
学生たちが映画を見る



学生たちが勉強する



学生たちがおしゃべりする



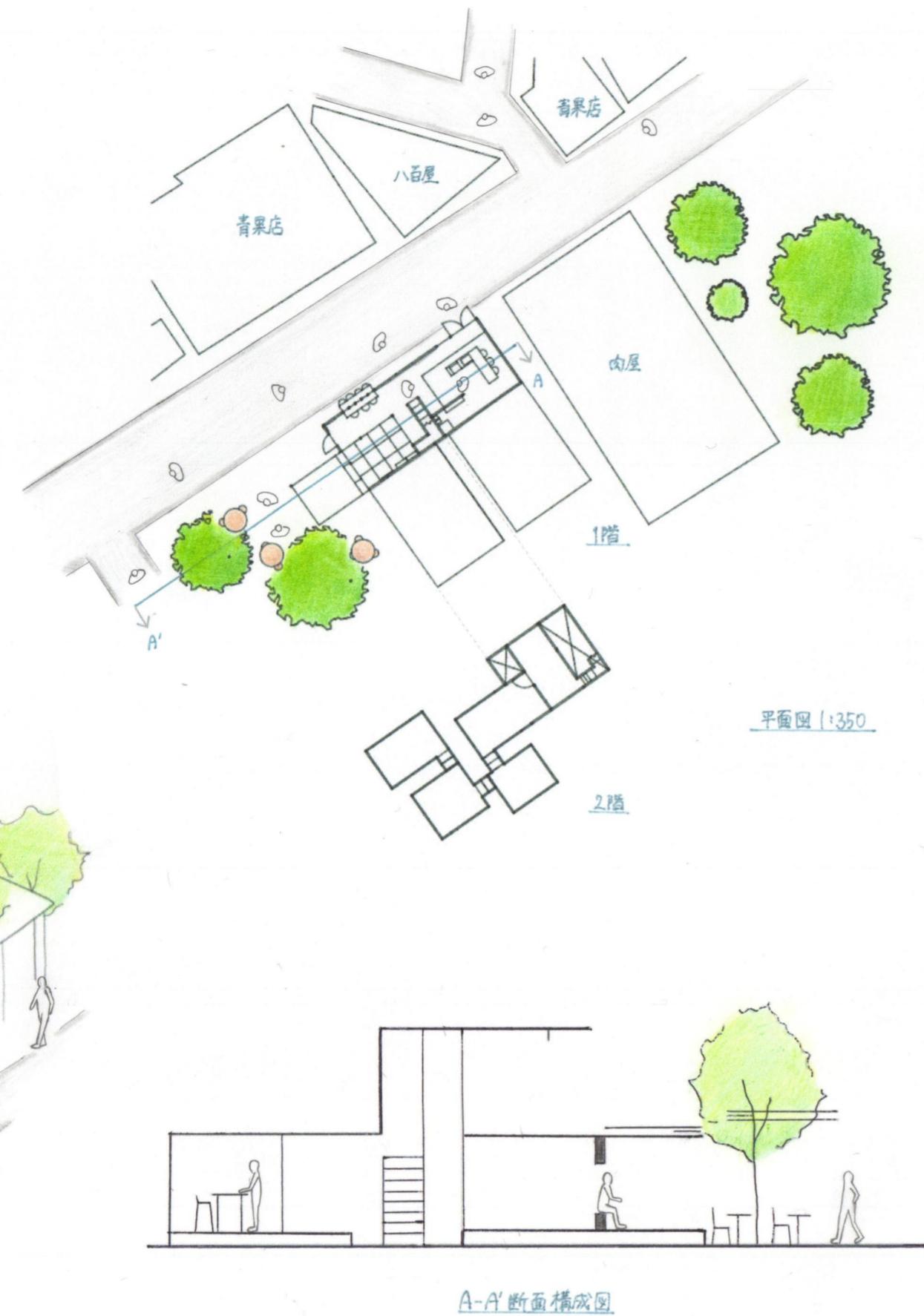
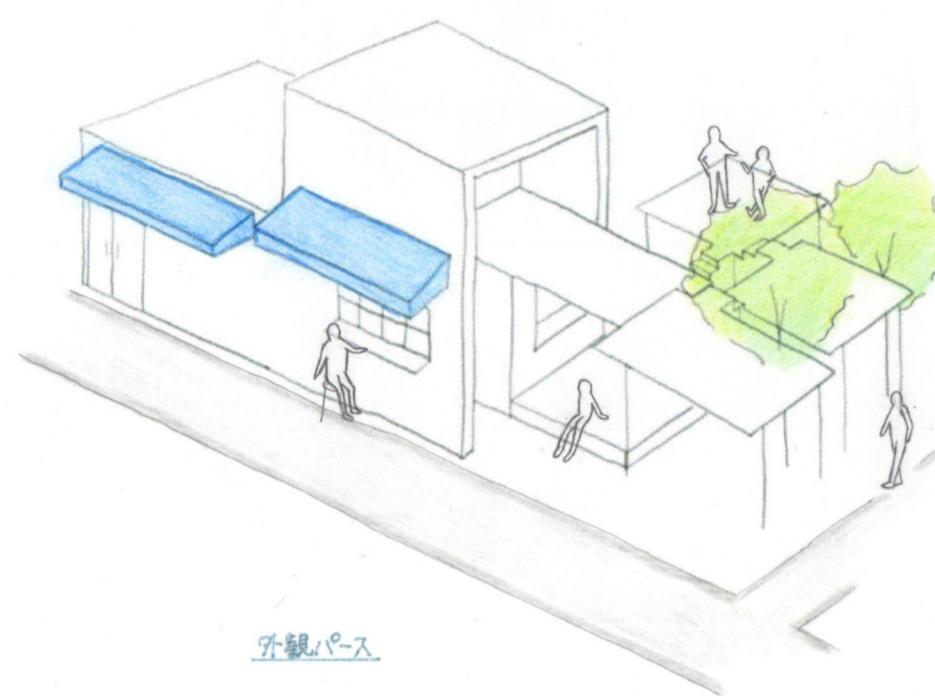
立面図 1:400

Spot3

食品材料の専門家で、おしゃべり好きの店主さんたちが集まるこのスポットには、近くの空店舗と空地を活用し、店主さんたちと地域住民がふれあえるコミュニティスポットを計画した。

ここでは、店主さんたちが地域住民に旬の食材を使ったおすすめの調理方法を教える料理教室や、熊本大学の留学生が訪れる人々に母国の料理を提供するイベントの開催を計画している。

建物内に収まらず、外にも人が座れる場所をたくさん造ることで、人集りとアクティビティがうまれ賑やかさを増したスポットとなる。



Spot4

学生が多く行き交う商店街に、自分の好きな時間に気軽に立ち寄れる書店・図書館を計画する。

屋外の大きな階段は、街道や隣の農園にいる人々とのコミュニケーションをつなぐ空間となる。

小学校の近くにあり、住宅街が隣接する空地に、まちなかの農園を計画する。

ここは小学生が野外学習の場、地域住民が菜園ができる場とする。

収穫の時期になると、商店街のスムージー屋さんやサンンドイッチ屋さんがここでマルシェを開く。商店街の店主さんと地域住民の連動したコミュニティが生まれる。

